資料 1-1
科学技術・学術審議会
学術分科会（第 81 回）・情報委員会（第 13 回）
合同会議
令和 2 年 9 月 18 日（金）
～令和 2 年 9 月 24 日（木）【書面審議】

第 80 回学術分科会における主な意見

【総論】

（提言全体の構成等について）

・学術全体に係る情報基盤については、提言の中で情報科学技術に特化した部分に入れ込むか、あるいは学術研究と情報科学技術両方に係る部分に入れ込むか、提言の統合にあたってよく検討するべきである。

・情報科学技術の振興と学術研究の振興という性質の異なるものを同時に扱う提言となるが、両者の性質の違いと関連性をうまく表現できると良い。

（コロナ新時代における学術研究振興の必要性について）

・コロナを受けて、社会実装に向けた研究が重視される風潮が強まると思うが、中長期的な視点を持って、研究の多様性を支えるボトムアップ型の学術研究の重要性を強調するべきである。

・学術研究において養われる論理的な思考力は社会に出た後も大いに役立つ能力であるので、学術研究の役割として、人材育成という観点は非常に重要であり強調すべき観点ではないか。

・研究者を目指す人材を増やせるよう、コロナをきっかけに学術研究の魅力を改めて示せるような記述があると良いのではないか。

・学術に対する社会の期待という観点でも記述をより充実させるべきではないか。

・具体的な提案はどれも必要だと思うが、大学によって状況は異なるため、各大学においてより良い制度や仕組みを作ることができるよう、デュアルサポートの精神を踏まえ、もう少し大くくりな提言としていただきたい。

・研究人材のサポートや今回のような想定外の非常事態への対応においては、各大学の取組では限界があるので、国の支援強化を強調するべきではないか。特に若手研究人材のサポートについては、将来を考えたときに必要な部分なので、もう少し強く具体的に記述すべきではないか。

（その他留意事項について）

・科研費の基金化や研究の遠隔化・自動化についてなど、具体的な取組について、研究者でないとイメージしにくい部分があるので、ポイントとなるところはもう少し明瞭に記載してはどうか。

・提言の中に様々な施策が盛り込まれているが、非常時対応施策の予算確保のために他の施策にしわ寄せが行かないよう、留意するべきである。

・「ウィズコロナ」から「ポストコロナ」へと社会が移行していくと言われるが、「コロナ新

時代」という場合にどの時期を指しているのかを明確にするとともに、社会が大きく変わるということよりも、どのような社会においても科学や科学者が重要な役割を担うことを強調するべきではないか。

（コロナ新時代における学術研究の役割について）

・例えばコロナ対応と気候変動対応の話を繋げて今後の研究の方向性について考えるなど、コロナ禍を踏まえた研究の在り方について、研究体制についての観点だけではなく研究内容に関する観点も含めて検討するべきではないか。

・新たな学問領域の創出について、例えばフォーサイト・サイエンスという未来予測をしていくような学問分野を立ち上げる動きなどがあるが、こういった動向も踏まえ、記述を具体化できると良いのではないか。

・IAP（インター・アカデミー・パートナーシップ）が提唱する「地球規模の結束(Global Solidarity)」という概念は、先進国と発展途上国との学術研究における格差の是正を意図したものであり、日本で言えば発展途上国との学術連携の強化という文脈に繋がるものなので、これを踏まえた記述にするべきではないか。

【不測の事態に対してもレジリエントな学術研究を支えるシステムへの移行】

（科研費の「基金化」の推進について）

・科研費の基金化について、今回運用の柔軟化に苦労したことで必要性が再認識されたので、ぜひ実現してほしい。

【コロナ新時代にふさわしい新しい研究様式への転換】

（研究の継続について）

・研究室におけるシフト制の導入に伴い、個々の活動時間を維持するためには研究室全体の活動時間を以前より長くする必要が生じるが、活動時間の延長に伴う安全管理体制の見直しも含め、この問題について検討すべきである。

（研究設備の遠隔化・自動化について）

・研究活動の遠隔化について、補正予算で既に措置されている部分もあるので、提言として更なる支援を求めるためには、支援が不足している分野など、遠隔化するべき分野を具体化する必要があるのではないか。

（コロナ禍を踏まえた大学等の施設整備）

・第 2 波、第 3 波や別のパンデミックにも備え、遠隔化や自動化では対応できない実験等について、感染対策を考慮した設備設計を行うべきである。

（学術情報基盤の在り方について）

・データ基盤に関し、大学の研究だけではなく、産学連携や府省連携の国家プロジェクトなども含めた国全体のデータのプラットフォームの構築にとどまらず、維持、活用についての検討が必要ではないか。

・データ駆動型の科学の時代を迎えることを踏まえ、人文学・社会科学も含めたユニバーサルなデータ基盤を構築し維持していくことが重要である。

・SINET は科学技術・学術の基盤となるものなので、現在のように大規模学術フロンティア促進事業において数年に一度予算獲得のための競争にさらされる立ち位置ではなく、国策として推し進めるべきものという位置づけにするべきではないか。

【学術研究の現代的要請への応答に欠かせない研究者の交流と連携を担保するための方策】

（オンラインサービスを活用したコミュニケーションについて）

・情報科学技術の活用に伴い対面でのやりとりが減少することで、人間の形成に当たって負の影響が出てくる可能性もあるが、そういった問題については人文学・社会科学の知見を活用して対処できる。

（国際連携について）

・留学生受け入れについて、入国時期等に関する統一的な対応方針等を示してほしい。

・留学生が入国後に一定期間隔離された場合、経費の負担や研究の遅延が発生するので、そういった問題について対応策の検討が必要ではないか。

・海外での職を得た研究者がほとんど出国できない状態で、特に若手研究者のキャリアパスに深刻な影響を与えている。研究者の海外渡航が優先的に許可されるような仕組みについて、検討するべきではないか。

【学術研究が社会の負託に応えるための方策】

（人文学・社会科学の知見の活用について）

・人文学・社会科学は、大局的な「価値」の創造と個別の社会課題の克服という 2 種類の役割によって、社会の負託に応えるものである。

・人文学・社会科学について、既に分野の細分化や固定化から脱却している研究者もいるので、現在も分野融合の革新的な研究はなされているが、そういった研究をより推進したいといった書き方などへと修正すべきではないか。

・人文学・社会科学の知見の活用の例としてペストに関する研究成果をとり上げると、犠牲者の存在を大局的に肯定しているとも捉えられかねないので、この例示は不適切ではないか。